

# 林政 ニュース

## RINSEI NEWS



森と木と人のつながりを考える  
**(株)日本林業調査会**

発行所 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-2 8  
 飯田橋ハイタウン204

TEL (03)6457-8381 FAX (03)6457-8382

MAIL info@j-fic.com

取引銀行 三井住友銀行飯田橋支店(普) 810522

郵便振替 00160-8-98120

発行人 辻 潔

年間購読料16,500円(1部880円、消費税込) (禁無断転載)  
 電子版(PDF、1部880円、消費税込)も販売しています。

再生紙を使っています。

インターネット・ホームページ <http://www.j-fic.com/>

2023(令和5)年9月6日(水)

第708号

### ■ニュース・フラッシュ

- 24年度林野庁予算要求は16.4%増の約3,557億円
- 税制要望に「譲与基準の見直し」、人工林面積重視
- 自治体の森林環境譲与税活用率上昇、22年度80%
- 緑の募金に大手企業協力、4億円目標—国土緑推
- 再造林費上乘せの「立木市場」構築へ、検討開始
- 一般流通材と軸組工法で純木造8階建て建設中

### ■緑風対談

ポイント解説・24年度林野予算要求の重点事項・上

### ■遠藤日雄のルポ&対論

米国最新事情(下)“人工林で競争する時代”の中で

### ■突撃レポート

“木工の聖地”を掲げ国産材回帰を進める飛騨産業

### ■地方のトピックニュース

- 東京に「木のワンダーランド」、消費者目線で開催
- 阪急阪神百貨店のCO<sub>2</sub>固定量第1号認証、大阪府

### ■寄稿

林野庁長官・青山豊久  
 「林業」と小学校社会科の教科書について 第1回

3

8

11

15

18

21



国産材に特化した展示商談会「WOOD COLLECTION 2023『JAPAN ReWOOD』」が8月18日から20日まで東京都江東区の東京ビッグサイトで開催され、木で作った花(写真右上)などユニークな製品も数多く出品された。(関連記事p18参照)

## 地方のトピックニュース

●「ReWOOD」に約6千人、消費者が8割  
「木のワンダーランド」を土日に初めて開催

WOODコレクション（モクコレ）実行委員会（事務局＝東京都）は8月18日～20日に東京都江東区の東京ビッグサイトで国産材展示商談会「WOOD COLLECTION 2023」JAPAN ReWOOD」（以下「ReWOOD」と略）を開催、600名以上が来場し、一般消費者が約8割を占めた。同展示会を土日に開催したのは初めて。



会場のおもちゃで遊ぶ子どもたち

都は、2016年に第1回「WOODコレクション2016」（第528号参照）を開いて以降、事業者や施主、設計士などを主な来場者として想定し、昨年（2022年）スタートしたReWOOD（第684号参照）でも従来の路線を引き継いでいたが、今回から一般消費者をメインターゲットに据えた。都森林課は今後の方針として、事業者向けは冬のモクコレ、一般消費者向けは夏のReWOODと棲み分けていくとしている。

ReWOODでは、「触れて楽しむ！木のワンダーランド」をテーマにした展示やステージイベントなどを実施。人気お笑いタレントの小島よしお氏によるトークショーや、（株）宮本卯之助商店（東京都台東区、宮本芳彦社長、第694号参照）によるスギ和太鼓の演奏、木のスプーンをつくるワークショップなどが行われた。

全国26都道府県から参集した約120社は、建材などよりも最終製品に近い家具や木工品を出品し、来場者が購入する光景もみられた。展示ブースのレイアウトも、これまでの都道府県ごとの配置から人の五感に合わせたものとし、消費者目線で動線も見直した。

## 国産材楽器目立つ、みどりの大使と「能登ヒバギター」制作中

ReWOODに出品されたアイテムの中で、一際存在感を放って

## 地方のトピックニュース

いたのが国産材を使った楽器だ。外材の調達難や環境意識の高まりなどを背景に、国産材楽器の開発・製造に取り組む企業が増えている。



「ATENOTE」シリーズの楽器

石川県金沢市で木材業を営むフルタニランバー(株)(古谷隆明社長)は、能登ヒバ(別名・アテ)を使用した楽器プロジェクト「ATENOTE(アテノオト)」を進めており、楽器メーカーに提案して能登ヒバのバイオリンやドラムセット、ギターなどを商品化している。同プロジェクトでは、今年4月に「能登ヒバ

アンバサダー」に就任した、シンガーソングライターでミス日本みどりの大使の上村さや香さん(第694号参照)のオリジナルギターを制作中だ。古谷社長は、「人の生活に身近な音楽で国産材の価値を高めるため、みどりの大使とともにPRしていく」と意気込んでいる。このほか、国産広葉樹材を使用したハープ「森の堅琴」や宮本卯之助商店と(株)東京チェンソーズ(東京都檜原村、青木亮輔社長、第472号参照)がコラボした「森をつくる太鼓」なども展示された。

### 静岡県「ふじのくに炭素貯蔵建築物認定制度」で18件を初認定

静岡県は、今年度(2023年度)から県産材を使用した建築物の炭素貯蔵量を見える化する「ふじのくに炭素貯蔵建築物認定制度」を運用しており、第1弾として18件を認定した。同制度は、①保育園等施設、②公会堂、③老人福祉施設、④助産院、⑤児童養護施設、⑥事業所・事務所・倉庫等、⑦飲食店の7区分からなる。8月24日には、とくに炭素貯蔵量の多い建築主に直接認定書を手渡す認定式を行い、次の6件の取り組みを顕彰した。

子育てセンターにじいろ・そよかぜ(袋井市、炭素貯蔵量…34.5t)▽城西区公会堂(掛川市、同33.9t)▽特別養護老人ホーム富士楽寿園(富士市、同32.1t)▽お茶畑助産院(袋井市、同17.3t)▽(株)杉浦建築店工場事務所(浜松市、同13.9t)▽浜松料理娯座樓(浜松市、11.0t)